

ホケンダイつきいちゼミ(2026年2月号)



Q1. 研究テーマを教えてください。



国際分野で私が行っている研究は、「ベトナムで看護を修め、来日して就労している方々のキャリア支援に関する研究」です。



Q2. お名前と今の仕事の内容を教えてください。



角濱春美と申します。青森県立保健大学の健康科学研究科(大学院)と、看護学科(学部)に所属しています。
学部では、看護技術や看護理論を教えています。大学院では、看護研究方法などを教えています。



ホケンダイつきいちゼミ(2026年2月号)



Q3. 研究室名とリーダーの先生を教えてください。



看護基礎科学研究室を開いています。この研究室は、看護の基盤となる科学を研究する教室ですので、大学院生は多様なテーマで研究を行っています。

今のゼミ生は、国際政策比較、看護教育、新人看護師教育、呼吸のしやすい体位を探求しています。2週間に1回、全員がリモートで集まって様々な意見交換をしています。



Q4. どうしてその研究をしようと思ったのですか。



大学が連携協定を結んでいるベトナムのナムディン看護大学を訪れたことがきっかけです。教員の方とお話したり、学生さんが学んでいる様子などを見学して「看護って、国を超えても共通だな」と強く感じました。

日本は少子化の影響で介護を行う人材が不足しています。日本で介護の仕事をしている多くのベトナム人は、ベトナムの大学や短期大学で看護の勉強をした方々です。この方々が、望むなら、日本でもベトナムでも看護の道を歩めるように支援したいと思いました。

ホケンダイつきいちゼミ(2026年2月号)



Q5.それはどんな研究ですか。



ベトナムで看護の勉強をして、日本でキャリアアップをした方に、zoomを用いてインタビューを行っています。伺う内容は、キャリアアップの道筋、今後の展望、望まれる支援等です。その人の人生に触れる研究なので、毎回、インタビューは盛り上がり、有意義で視野が広がる経験ができています。データ収集そのものがとても楽しいです。



Q6.どんな成果が得られていますか。



キャリアアップのためには、言語の壁はもちろんですが、ベトナムと日本の資格制度にバリアがあることが分かりました。キャリアアップした皆さんは、独自に情報収集して、様々な学習の工夫をして、このバリアを乗り越えていました。バリアを乗り越える原動力は、学習を信じる力、看護や介護の仕事の魅力、きっかけをくれる人の存在などが抽出されています。

ホケンダイつきいちゼミ(2026年2月号)



Q7.この結果をどんな人にどのように活用したいですか。



日本でのキャリアアップを望む方々に、正確な情報を提供したいと思っています。さらに、日本語学習や資格取得のための学習の工夫を共有できればと思っています。このために、フェイスブックやホームページの開設の準備をしています。また、制度上のバリアが小さくなるように、アジア全体の看護が手を携えて発展していけるような働きかけしていきたいと考えています。



Q8.皆さんにメッセージをお願いします。



ベトナムと日本の看護の連携のことに興味を抱いて活動を始めたら、ベトナム人留学生が研究室に入学してくれたり、地域や国を超えたつながりができたり、経験や視野が大きく広がりました。何事にも興味を抱いたら、現場で体験したり動き出すことが大切だと思います。まずは一步を踏み出すことが大切です。

ホケンダイつきいちゼミ(2026年2月号)



最後に、研究のことをもっと知りたい！大学院のことをもっと知りたい！場合は、どちらにコンタクトすればいいですか？



対人ケアマネジメント領域 看護基礎科学研究室
教授 角濱春美 h_kadohama@ms.auhw.ac.jp



ありがとうございました。
保健大学では、毎月、その年のテーマに沿って、
情報を発信していきます！！